

「障がいのある方の家族」の本当の思い

みなさんは、「障がいのある方の家族」の本当の思いを聞いたことがありますか。
今回紹介する作文は、「障がいのある方の家族」の本当の思いを伝え、「どんな人権感
覚をもつことが大切なのかを私たちの心に届けてくれます。

大切な存在

筑山中学校3年（受賞時） 篠原 結月

私には8歳下の妹がいます。妹は、いくつもの病気と、障がいをもって生まれてきました。
妹が生まれる前に、母が妊娠し、妹ができると聞いたとき、私はとても嬉しかったです。
でも、生まれてくる赤ちゃんに障がいや病気があると分かり、私はその病気のことなど知
らなかったの、よく理解できていませんでしたが、母は泣いてました。そして、妹が生
まれ、私は早く会いたかったのですが、なかなか会うことができず、初めて会ったのは妹
が生まれてから、しばらくしたあとでした。

妹は生まれてからも、たくさんの病気と障がいのせいで通院が多く、体が弱いため
入退院を繰り返したり、病気を治すために手術をしたりしていました。また、病院の先生
に「大きくなっても、周りの子みたいに話したり、走ったりできないかもしれない」と言
われ、私も家族もみんなショックでした。私は「なんで妹ばかり辛い思いを、しかもこん
なに早くからしないといけないんだろう」と悲しくなりました。

妹が生まれてから、私達家族の生活は大きく変わりました。母は、妹の入院や手術、通
院に付き添い、父も、母と妹の着替えや食料、生活必需品などを届けるため、家と病院の
往復をくり返していました。私と弟は、祖父母の家などに泊まることが多くなったので、
誕生日に家族に会えないということもありました。また、妹が体調を崩して旅行が中止に
なるなどと、家族で出かけることが少なくなりました。

でも、私は一度も妹なんて生まれてこなければよかったと思っただけではありません。私
は「妹が生まれてきてくれてよかった」と心から思っています。妹は生まれたときは大変

はな せいちよう そくど おそ
だったし、話せないかもなど言われていました。また、周りの子よりも成長する速度が遅
いす。それでも、いもうと すこ かくじつ せいちよう いま わたしたち いっしょ はし
妹は少しずつ確実に成長していったし、今では私達と一緒に走りま
わったり、はな いもうと わたしたち かぞく たいせつ せんざい わたしたち
話したりしています。妹は私達家族にとって、とても大切な存在であり、私達
かぞく ひかり いもうと えがお いもうと
家族の「光」です。妹がいるだけで、みんなが笑顔になれます。妹がいるだけで、みんな
しあわ かぞく そふぼ ぜんいん いもうと まわ
が幸せになれます。これは、家族だけではなく、いとこや祖父母も全員です。妹は周りの
ひと えがお いもうと わたし わたしたち だいす
人を笑顔にしてくれます。そんな妹のことが私は、いや私達みんな大好きです。

いもうと いま しょうがく ねんせい こうく しょうがっこう かよ しょうがくせい ちよくせん
妹は今、小学1年生になり、校区の小学校に通っています。しかし、小学生になる直前
こうく しょうがっこう い とくべつ し えんがっこう がっこう い ちち はは なや
まで校区の小学校に行くか、特別支援学校という学校に行くか父と母は悩んでいました。
いもうと ふつう しょうがっこう い ほか こ おな がっこうせいかつ おく まわ
妹が普通の小学校に行くと同じようにきちんと学校生活を送れるのだろうか、周
りの子と仲良くできるのだろうか、いじめられないだろうか・・・と。しょうじき わたし しんぱい
正直、私も心配で
した。でも、いま いもうと たの がっこう い ともだち はなし わたし
今、妹は楽しそうに学校に行ったり、友達の話をしてたりしています。私はそ
いもうと み あんしん こころ しんぱい じぶん
んな妹を見ると、とても安心します。しかし、心のどこかでまだ心配している自分いま
す。これからがくねん あ わ いもうと
学年が上がっていろいろと分かるようになってきたとき、妹がいじめられた
り、からかわれたりしないだろうか。そして、そのとき妹が辛い思いをしないだろうか・・・
わたし いもうと いじょう つら おも いもうと きず み
と。私は妹にもうこれ以上、辛い思いをしてほしくないし、妹が傷ついているところも見
たくありません。いもうと わら わたし いもうと きず ひと
妹にはずっと笑っていてほしいです。だから私は妹を傷つける人がいた
ら、ぜったい ゆる なに いもうと まも ぬ
絶対に許さないし、何があっても妹を守り抜きます。

ですが、そうならないためにも、わたし しょう ただ ちしき ひろ
私はこれから、「障がい」についての正しい知識を広
めていき、おかしいことはおかしいと言える人間になっていきたいです。「障がい者」と
き 聞くと「不幸」などというイメージがある人も少なからずいると思いますが、それは間違
けつ けつ ふうこう しょう
いであり、決して不幸なんかではありません。障がいをもっていても、もっていなくても、
かけがえのないいのち か かわりはないのです。そして、みんながそのことをかん
よ いちにち はや さべつ ねが
この世から一日でも早く「差別」というものがなくなることを願っています。



ほうむしょうじんけんようごきょく ぜんこくじんけんようご いんれんごうかいしゆざい
法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催

だい かいぜんこくちゅうがくせいじんけんさくぶん ふくおかけんたいかい しょうれいしょう
第40回全国中学生人権作文コンテスト福岡県大会 奨励賞